

# 番組審議会

## 第675回

2023年10月16日

### ■ 審議会の構成

委員総数 10名

委員長 音 好 宏

副委員長 江 澤 佐知子

委 員 尾 縣 貢 萱 野 稔 人

喜田村 洋 一 佐 藤 智 恵

洞 口 依 子 長 嶋 有

水無田 気 流 目加田 説 子

TBSテレビ 佐々木 社 長

龍 宝 取締役

井 田 取締役

瀬戸口 編成局長

平 田 コンテンツ制作局長

片 山 ドラマ制作部長

飯 田 プロデューサー

中 田 編成考査局長

中 島 編成局考査主幹

菊 カスタマーサクセス部長

市 川 番組審議会事務局長

### ■ 議事概要

#### (1) 答申事項

TBS放送基準の一部変更について（民放連放送基準の改正に伴うもの）

#### (2) 審議事項

1) 「VIVANT」9月17日（日）13:30～15:24放送分（ダイジェスト）

9月17日（日）21:00～22:19放送分（最終話）

2) その他

(3) 報告事項

番組種別公表制度に基づく4月から9月までの放送実績について

(4) 事務局報告事項

- 1) 視聴者からの声について
- 2) 次回審議会の議題及び日程について

【答申事項】

□民放連（日本民間放送連盟）放送基準の改正に伴う、TBS放送基準の一部変更について、番組審議会は放送法第6条第4項に基づき、諮問案が妥当である旨、答申した。

【放送全般】

ジャニーズ事務所の性加害問題について、TBS側から以下の発言があった。

- TBSはジャニーズ事務所に4つの要望を出して、注視している。
- 今月7日に「報道特集」が独自に社内取材を行い、ジャニーズ問題に関する検証報道を行った。
- 会社としてもこれまでの反省も含めてより人権尊重を強化していくため弁護士、第三者の力を借りて中立的な立場から評価する社内調査を実施。
- 事務所の救済、補償の実施がどれくらい具体化しているかどうかとそれをさらに促すべく、先方と話し合う予定。

委員からは以下の発言があった。

- 「報道特集」は社員・元社員の生の声を非常に率直に真摯に伝えていた。キャスターの方々のコメントからも報道機関としてこの問題を非常に重く受けとめていることも伝わってきた。

【委員の主な意見】（「VIVANT」について）

- これが日本の今のテレビドラマの出力の最高の状況なのかと思われた。
- ネット上で考察班が多数出るほど、視聴者参加型の新しいスタイルを切り開いた。
- 「こう見てほしい」「こう驚いてほしい」という思いが、ドラマの筋や演技のノイズのように、うっすら見えるドラマであった。ただ意欲作であり、力作であることは十分伝わってきた。
- 世界に通用するドラマを作りたいという意欲が画面の端々から伝わってきた。  
日本とモンゴルの友好にも大きく貢献したのではないかと思う。
- 後半は会話劇が中心になっていて、アクションが少なくなってしまった。  
世界市場か日本市場、どちらを主流に置くかで作り方が変わってきてしまうので、十分に検討してほしいと思う。
- ミステリー、アクション、親子愛、多くの要素を含み、映像が壮大で迫力があり、毎回映画を観ているようだった。
- コンテンツを作るテレビの底力はこれくらいあるのだというのをしっかり見せていただいた。
- 海外の視聴者にも十分に見ていただける内容になっていると感じた。  
ただ日本のドラマでは、海外ドラマと比較して尺や回数の問題で描ける内容が限られてしまう。

□見応えのあるインパクトのある作品を作り上げたことはポジティブなチャレンジとして受けとめた。ネットジャック的な現象が見られたことが、ネットに押されるテレビ業界という構図を一変させた快挙、偉業だと思った。

□放送前の宣伝を抑制したり、SNSなどでいろいろな仕掛けをしたり、ドラマの展開、手法に対しての挑戦が伝わってきて面白かった。

□スケールの大きなものもやりつつ、小さな家庭の中で起こっている問題も取り上げる、そういう「日曜劇場」であってほしい。

TBSテレビでは番組審議会委員のご意見を真摯に受け止め、今後の番組内容の向上に活かしていく所存です。(番組審議会事務局)